

「あなたの街で市長と語ろう！」



市長が各地域に出向き市民の皆さんと直接対話する「タウントーク」。厚別区では12月17日に区民センターで開催され約300人が参加しました。

多くの市民の参加が心強い

市民の皆さんが日々考えていることや望んでいること、これから取り組んだらよいというアイデアなどを直接話し合いたいと始まったタウントーク。九月から各区で開催し、厚別区は九番目の開催となりました。

市長は、会場を埋めた参加者に「札幌市政に多くの市民の方が関心を持っていただいていることを大変うれしく、心強く思う」とあいさつ。市政運営の指針となる「さっぽろ元氣ビジョン」に示された内容を中心に、市民の力が息づくまちづくりをしていきたいと参加者に語り掛けました。

寄せられたたくさんの意見

参加者との意見交換では、事前に寄せられた七十項目の意見や質問を「市民活動の支援」「魅力ある厚別の街づくり」「市役所改革」「教育問題」などに分類し、参加者に配布。この分類に沿って意見交換が進められました。それぞれの項目で意見を寄せていた九人と、自由発言の時間に受けた四人からの意見や質問に、市長は熱心に耳を傾け、それに対する考えを述べました。

タウントーク終了後、感想や今後の開催方法などについて行ったアンケートには、四十三件の意見が寄せられました。その一部を紹介します。

～寄せられたアンケートから～

一緒に考えようという姿勢が一貫していたと思う。借金財政を立て直すことと、新たなことをやるのは矛盾しているが、巧みに調整し、今は選択を市民とともにする時代だという考えは好感がもてる。

(70代 男性)

時間不足でたくさんの意見が聞けず残念でした。日ごろから自分の考えを聞いてほしい人が多いことを知り、興味を持つきっかけになったタウントークでした。

(40代 女性)

市長の説明が抽象的であり、意見の取り上げ方も適当でなく不満が残った。テーマ設定や項目のポイントを絞り、時間配分、日程も考え、より実のあるタウントークにして欲しい。

(70代 男性)

多くの年代の人との話し合いの場を持って、一人でも多くの若い人たちが、自分たちの街さっぽろは自分たちがつくっていくことができる、自分たちがかわることで変わっていくという実感が持てる、そんなタウントークができるとうれいと感じました。

(40代 女性)

良い職員とは市民の声をよく聞くことができ、よく説明ができる者と言われました。当然と言えば当然ですが、民間出身の市長として、自ら市民の声を一生懸命聞こうとする姿勢に好感がもてました。

(60代 男性)

タウントーク開催に当たり皆さんからいただいた貴重なご意見・ご提言は、すべて市長が目を通すほか、今後のタウントークの開催方法や市政運営の参考とさせていただきます。